

芦高の伝統をいまだに受け継いでくれているという所は、やはり、(ちょっと一つの言葉では、なかなか表現できませんが)非常にアダルトな部分がね、芦高生にはあると思います。それは、記念祭などの行事を見てもお分かりのように、(今年から6月に変わったんですけど)よくこれだけ生徒の力でこんな大きな行事をやるなあ、大学レベルの記念祭だと、ある方が今年の記念祭を評しておっしゃったんですけどね。それくらい、本校の生徒は、昔ながらの“先取り”といいますが、“総合性”といいますが、学校の教育の全体像の中にある“総合”というものを、いまだに大切にしているということなど、私、20年間芦高でお世話になっておりますが、いまだに変わらないものがあるなあと思います。

### 芦屋高校の将来像

——現在のそして将来の芦高生に望むこと

**司会** 今日、朝の10時から、ほんとうに長時間にわたって、たいへん貴重な、また、年史には今まで出てきていなかったような裏話も多く聞かせて頂き、ほんとうにありがとうございました。

では最後に、現在と将来の芦高生に望むことを、一言ずつ、お言葉を載いて終わりたいと思います。金坂先生、どうぞ。

**金坂** やっぱり、個性のある生徒であってほしい。今どうですか、入学して途中退学する生徒は、どれくらいおりますか？ 高校生の中途退学が、非常に問題になっておりますが。

**小西** たまたま県の統計の要求がありまして、昨年度の本校の退学者は10名です。そのうち、3名ばかりがいわゆる海外留学でそのまま退学して、7名が、進路変更というよりも登行拒否的な要素で、長欠の結果で退学しました。

**金坂** それなら、非常に成績は良いと思いますね。生徒に、自分の目標を持たせてほしいと思うんです。

受験の姿勢を見ましても、以前でしたら、例えば、自分は公立を受ける、或いは、経済を専門にやると。経済をやるとしたら、関学の経済、関大の経済、大経の経済と、こういうふうに受けたんですね。今の生徒は、関学を受けると決めると経済から文学部までみな受けるんです。一体どれが本命だ、と聞いて

も、いや、関学に行きたいんですけど、何をやるという一つの目標をはっきり持たない。だから、自分はこれを一生やるんだ、というような、目標を持たせるような教育をしていただいて、やはり、個性のある生徒を作っていくことが大事じゃないか、と思うんですけどね。

私はよく生徒に言っていたんですが、「とにかく自分の一番好きな道に行け」と。「そしたら、一生後悔しない」と。僕なんか、親父の反対押し切って国文科をやったんだけど、国語をやって、国語の教師になって、仕事がいやだと思ったことは一度もないなあ。とにかく、好きなもの、文学なら文学、経済なら経済と、目標を決めた生徒になってほしい。また、そういう指導をしてほしいという気がするんです。

**司会** どうも、ありがとうございました。曾谷先生いかがでしょうか。

**曾谷** 芦屋高校の持ち味、特性というものは、もう既に20年代から今日までずっと続いてきているようですが、その点は大事にさせていただきまして、一方、そのマイナス面が出ているようですね。そのあたりをどのようにカバーするか、ということが、問題ではないかと思われま。それには先ず心の世界をひろげ、豊かな気持ちをもって、自分で物を考える基盤と習慣を養ってゆくことが大切のように思います。

クラブ活動も、皆さん、熱心になさっているようですが、これも例えば、芦屋高校の生徒さんでマラソンをやっている方が、毎日汗をかいて一生懸命走るんだそうですね。ところが、走りながら、「何を目的で走ってるんだらうなあ。空しいなあ」と言ったというのを間接的に聞きましてね。クラブ活動をやりながら、そのような気持ちでやっている生徒もあるかも知れませんか。ですから、先生がおっしゃったように、楽しく何でもできるような雰囲気作りができないものかなあ。

それから、この頃の人は、心配りや思いやりというのがありませんね。そういうところが、学校の汚いところにも出てきてるとちがいますかしら。こうしたあたりを強制でなくて、どういうふう

したらいいか、私も、学生を相手にしまして、日夜悩んでおりますけれど。難しいことですね。

**司会** ありがとうございます。

**福山** 時代の流れに流されていく面と、それに逆らっていく面と、両面あると思うんですね。奥田先生が言われた芦高における40年代というのは、非常に大変な時代である。今では想像できないような。そのことを伝えようと思ってでも伝わらない時代になってるわけですね。ですから我々は、芦高の始まりの時に勤め、5回生・6回生を直接に教えられたことに一つの誇りみたいなものを感じるし、逆に言えば、ああいうものを残してしまったのかなあという思いがあるわけですけど、これが時の経過とともに、大きな流れの中に入って、前半の草創期の中にもうまく浸み込んで行くのではなかろうかなと、奥田先生のお話を聞きまして、そう思います。

それから、同和問題のことでは、私も兵庫高校で体験的に経験し、非常に苦勞したことがございます。同じ問題が起きたのですが、これからは豊かな心を持ち得る社会、学校が、創造されていくべきだと思うし、また、そうあらねばならぬと思います。

**中西** 「打てば響く」という言葉がありますが、やっぱり“打てば響く教育”——私達のやっていることがどれくらい生徒に影響を与えているかということは、大きな問題だと思うんです。だから、現実の先生方も、そうであろうと思ってやっておられることは、間違いじゃないです。我々は、これから先、大いに勉強もしないといけないうし、世間にも生きていかないといかんから、やっぱり、“打てば響く教育”を芦屋高校がやっていかないといけない。希望を言うとうそういうことになるのではないかと思いますね。

**津本** 学校を出て、20年・30年経ってみると、だんだん昔を思い出すということは、誰でもあるんですね。その時に、高校時代どういふふうな人間的な接触があったか、それが薄ければあんまり懐しさもないでしょう。お互い同士、友達同志の接触、或いは先生との接触、それがいい思い出にしる悪い思い出にしる、20年・30年経つとだんだんその味わいが出てくるものだと思いますね。

**奥田** この年になると、小学校から大学までいろんな同窓生の集まりがあって、昔の同年令の仲間が来てるわけですね。それを見ますと、学校の成績、と言うと語弊があるが、学歴などは関係ないですね。“あしかび”などにデーターとして出ているような進路状況などは、何にも関係のないのは事実です。だから、先生方或いは学校は自信を持って、人間として一番大事なことに視点を置いて教育なさってください。長い人生の最後まで、きちんと、自分をある程度持って行けるような土台を、若い青年期になんとか教えておいてほしいという気はします。

人間としての生き方とか人生観は、できればしっかりしたものを育てる。人格教育というか、それさえあれば、中西先生がおっしゃるように、「打てば響く」という、「感と応あるのみ」という言葉がありますけどね、“感応の世界”というのかなあ——そういうことをちゃんとしておいてもらったら、別に難しいことはない、思う存分やって頂きたいと、それだけです。

**曾谷** 案外そういう基盤は、幼児期に出来てるんですね。そうしますと、家庭教育というところへ戻って行くと思うんですが。まあ、できるだけ学校教育の場において、それをお助けしないと、ということでしょうね。

**金坂** そういった学校と家庭との連携というのは、どんどん無くなっていくんじゃないでしょうか。そして、教師が厳しいことをしたら教育委員会に訴えて対立してしまう。そうじゃなく、もっと父兄と話し合える場を作る、これは大切なことじゃないかと思うんです。もう一つ、在学中に生徒に何かいつまでも覚えておくような印象を与えておくことも必要ですね。今、私のところへ、3回生が月に一遍ずつ集まるんです。6、7人ですけどね。「先生はこういうことを言われた。先生にこういうことを教えてもらったのを、いまだに覚えている」と言って、私が冗談まじりに言ったことを非常によく覚えているんですね。あんまりしかつめらしく言ったことじゃなしに、もっと座談的に或いは冗談まじりに言ったことを、よく覚えてますね。だから、何かそういう印象に残るようなことを生徒の心に植え付

けておくことも、必要じゃないかと思います。

**曾谷** それは感じますね。私も先だって、クラス会に出席しましたが、戦争中の教え子がね、先生がこんなこと言った、あんなこと言った、って。私は忘れてしまっているんですけどね、本当に、頭かかえました。(笑い) よく覚えています。

**司会** ほんとうに長い間、どうもありがとうございました。最後の「現在、将来の芦高生に望むこと」というところでは、私自身感銘を受けることがたくさんございました。